

さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

(創世記3:1)

神はアダムを地球の土で造られました。
そこには、人間耕作を計画された神様の御心があります。
今日は、人の心を耕される神様の働きをイスラエルの先祖ヤコブを通して学びます。

土の成分

土は何を混ぜるかによって成分が変わる性質をもっています。
霊的には闇に接すると狡猾さが現れ、光に接する時、知恵となります。

イスラエルの始祖ヤコブの場合

ヤコブは、生まれながらにして狡猾さやずる賢さをもっていました。
ヤコブは双子の兄、エサウの長子の権利をレンズ豆の煮物一杯で買い、父のイサクをだまして、長子のエサウの代わりに祝福の祈りを受けました。
しかし、神に対する真っ直ぐな心をもっていたので、神はヤコブが訓練を通して、その狡猾な属性を引き抜くようにされました。

ヤコブはヤボクの渡しで命の危険に遭遇した時、自分を完全に神に明け渡し、自分の知恵を捨て、イザヤ41章14節にあるように、虫けらのヤコブの姿に変えられました。それ故に、神はヤコブを通してイスラエルの12部族を形成されました。



神の前に徹底的に自分を低くし、きよい心の器を備える時、
上からのまことの知恵が与えられます。
父よ。感謝致します。
この世の知恵ではなく、真に神に頼ることを教えられた
ことを。

さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

(創世記 3 : 1)

今日は、アダムとエバを惑わした蛇について学びます。

蛇

エデンの園での蛇は現在私たちが目にしている様ではありませんでした。美しく賢かったので、エバにとりわけ愛されていました。蛇は闇に接すると狡猾になるという属性を持っていました。

神はなぜ狡猾な蛇がエデンの園にいるようにされたのでしょうか？

神はアダムとエバが結局その実を食べることを知っておられましたが、エデンの園に善悪の知識の木を生えさせました。人間耕作を通してまことの子どもを得るための神の深い摂理がありました。

神が蛇を創造された時に、狡猾に変わってしまうこともある属性を持たせたのも、このような理由からです。

サタンの働きを受ける。

その内面に狡猾な性質をもっていた蛇を利用しようとしたサタンは、蛇に闇の電波を送り続け、蛇はサタンの声を聴いて受け入れサタンの道具となりました。私たちが生きている、この終りの時は、更にサタンの惑わす力が増大しています。サタンはその人の内にある最も非真理なものに働きかけることができます。



私たちに苦しみをもたらすサタンは神様にとって人間耕作の道具でもあります。

サタンの策略をうち破る為には、自分の心に見張りを置き、自分の思いか、神の御心かを見分ける為に絶えず祈らなければなりません。

さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

（創世記3：1）

今日は、創世記3章1節のみ言葉から、蛇がどのようにしてエバを惑わしたかを学んでいきます。

サタンの策略

サタンの目標は万物を支配する権威を持ったアダムでした。直接的にアダムに近づくことができなかつたサタンは、蛇を利用してまずエバを惑わし、エバを通してアダムが罪を犯すようにさせました。

創世記3章1節で蛇は、「どんな」、「ほんとうに」という言葉を使って、神が「食べてはならない」と言われた事実をエバが疑い、エバの心に混乱が生じ、確信がゆらぐようにしました。

神が「食べてはならない」と言われた言葉を直接言われたのは、アダムに対してでした。本文の「言われたのですか。」とは、神がエバに直接言われたように思わせる質問です。蛇はエバにまるで「神があなたにこう言われたのですか」というふうに問いかけ、エバがアダムの権勢の下にあることを一瞬忘れさせ、同等の地位にいるように感じさせました。これによってエバは神のことばを変えて答えるようになり、結局惑わされてしまいました。



エバはサタンが蛇を通して巧みに投げかけた狡猾な言葉によって、神の言葉に対する確信が揺らぎ、神の言葉を変えてしまいました。私たちがフツとしたことで神様の戒めを後にしていないでしょうか。悪魔サタンの誘惑に陥らないように、自分の心を絶えず見張りましょう。